

8/4
(木)



▲ 初めての全国大会出場を果たした田鶴濱さん

攻めの姿勢で臨んだ全国大会

第56回全国道場少年剣道大会(7月29日、日本武道館で開催)に出場した田鶴濱由一さん(星城中3年)が町長を表敬訪問しました。母に連れられて始めたことがきっかけで剣道にのめり込んでいった田鶴濱さん。初めての全国大会出場に「とても緊張したが、攻めの姿勢で臨めた。次の目標はインターハイで活躍すること」と抱負を語りました。

— 今月号の表紙 —

野外音楽会が5年ぶりに庁舎芝生広場で行われ、申し込みをした親子連れなど約150人が訪れました。来場者はレジャーシートを広げ、夏の夜風にあたりながらゆったりと阿久比吹奏楽団の演奏などを楽しみました。



あなたは写っていませんか。もし写ってれば、写真をおわけしますのでご連絡ください。 政策協働課調査広報係 ☎(48)1111(内線1310)

9月10日～16日は自殺予防週間



令和3年、日本では、2万1,007人が自殺で亡くなっています。男性の自殺者数は、女性の約2倍となっています。自殺の原因・動機としては、健康問題が最も多いですが、令和3年は令和2年と比較して、経済・生活問題が最も大きく増加していました。残念ながら本町でも自殺で命を失う方がいます。

自殺の原因は、健康問題、経済問題などさまざまですが、周囲がちょっとした本人の変化に気付くことで自殺を防ぐことができます。いつもと違う様子はないかを気かけ、学校、職場、地域、家庭で温かく見守りましょう。自殺を防ぐキーワードは「気付き」「聞く」「つなぎ」「見守り」です。

気付き

いつもと違う様子はないか気かけましょう。いつもと様子が違う場合には、まずは声をかけてみてください。

【こんなSOSのサインに気付きましょう】

- ①表情が暗く、笑顔が見られなくなった
- ②口数が減って元気がない
- ③周囲との交流を避けるようになった
- ④投げやりな様子やいらいらしている態度が目立つようになった
- ⑤体調不良を訴えるようになった

聞く

人は、話を聞いてもらうことで気持ちが楽になることがあります。無理にアドバイスをする必要はありません。まずは親身になって話を聞いてください。

つなぎ

気分の落ち込みが大きい時などは、メンタルクリニックや精神科といった専門医や専門機関への相談を勧めることも必要です。

見守り

悩みを抱えていることを周囲に訴えられない方もいます。普段の何気ない変化に気付けるよう、注意深く見守ってください。

一人で悩まないで

もしあなたがつらいと感じていたり、傷ついていたたりする場合は、一人で抱え込まず誰かに悩みを打ち明けましょう。

身近な人に話しにくい時は、電話で相談を受けてくれるところがあります。

悩み事相談窓口一覧

- ▽保健センター ☎(48)1111(内1520・1521)
- ▽半田保健所健康支援課こころの健康推進グループ ☎(21)3341
- ▽教育相談こころの電話 ☎052(261)9671
- ▽子どもSOSほっとライン24(24時間) ☎0120(07)8310
- ▽あいちこころほっとライン365 ☎052(951)2881

■問い合わせ先 保健センター ☎(48)1111(内1520・1521)

